

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成26年3月10日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670103573
法人名	医療法人 吉翔会
事業所名	グループホーム ゆうかり
所在地	鹿児島県鹿児島市吉野町5400番地1、2 (電話) 099-244-5481
自己評価作成日	平成26年2月3日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成26年3月5日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人が運営しているグループホームであるため、同敷地内に医療機関やリハビリ施設があることが特徴である。病気の早期発見や、早期治療が行えるので、入居者様やご家族に安心して頂いている。重度医療や看取り介護にも取り組み、住み慣れたホームでより長く過ごせるような環境を提供している。ホーム内は天井が高く、日当たりが良いことで開放的な雰囲気である。季節の行事に合わせた飾り付けを行い、手造りの温かさを感じて頂いている。居室内は馴染みの家具や持ち物を持ち込み、くつろげる空間を作っている。日課はあるが、入居者様の思いや気持ちを尊重し、強制のない日常を過ごせるよう配慮している。定期的な外出やドライブで世間との繋がりを保ちつつ、気分転換も行っている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・医療法人が運営するグループホームで同敷地内に医療機関や通所リハビリテーションの施設があり、早期発見や早期治療ができ、利用者とその家族、職員も安心できる。また、看取りケアに取り組んでいる。
- ・入居時から記録に残るものを、との思いで色紙に1年間のアルバムを作る取り組みを行い、それぞれの居室に掲示している。
- ・ホーム内は天井が高く日当たりも良く、ベランダに屋根もあり日光浴ができる。
- ・利用者と職員は同じテーブルで昼食を食べ、「皆で食べるとおいしいよ」と入居者の声が聞かれる。また、職員は情報交換しながらおいしい食事作りを心がけている。
- ・管理者は、職員の資質向上をめざし、研修会に積極的に参加している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	スタッフルーム、玄関の目の付きやすい箇所に施設の理念を掲示している為全職員が理解出来ている	理念に基づいて全職員は日常ケアを行っている。また、玄関・スタッフルームに理念を掲示し実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	1回/年の地域交流会の実施。地元中学校の体験学習の受け入れを行い、今後はボランティアの受け入れも検討している。しかし、事業所から外に交流を発信することは難しいのが現状である。	地域の総会に参加要請があり、参加している。ホーム行事のチラシやポスターを作成し、地域や町内会の回覧板で案内し、参加されている。近隣から野菜や花のおすそ分けがあったり、ボランティアの受け入れを行っている。中学校の体験学習の受け入れも行っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	上記に書いた通り事業所が積極的に外部へ出向くことは難しいが相談等あれば助言は出来る。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>1回／2月の間隔で会議を実施。御家族や有識者より活発な意見を頂き会議の内容を後日職員ミーティングで報告している</p>	<p>会議は定期的に行われ、事業所の実情やサービス内容、外部評価結果報告等をしている。意見交換も活発で、そこでの意見を取り入れて、居室表札の改善をしたり、食べ物の持ち込み時は職員に声かけをしてもらうなど、サービスの向上に役立っている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>1回／3月、市役所に空室状況の報告を行っている。</p>	<p>定期的に市の担当窓口に出かけて、現状報告や相談を行っている。地域包括支援センターの職員とも連携を取りながら協力関係を築いている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>玄関の施錠を含め身体拘束は一切行っていない。身体拘束マニュアルの定期的な確認を行っていない。</p>	<p>玄関の施錠は日中、行っていない。安全対策としてセンサー作動装置が設置してあり、視力障害があったり、歩行に特徴がある利用者には、安全に過ごせる環境作りをしている。言葉遣いに気をつけ、ミーティングでも常に意見交換をして、日常的に身体拘束をしないケアに努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>定期的な研修は行っていない。職員同士の連携を図り虐待をしない、見過ごされない環境になっている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>成年後見制度を利用している入居者様はいない。権利擁護の制度について学ぶ機会は持たれていない。グループホーム協議会などの研修に参加して勉強している。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>重要事項、入居契約書に基づく内容を時間をかけて説明している。事業所としての対応可能な範囲や医療連携体制を詳しく説明し理解、納得、同意を得て契約を行っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>運営推進会議や家族会など意見交換出来る機会を設けている。必要時には会議を開き改善に努め、結果を御家族へ報告している。</p>	<p>面会時や運営推進会議・家族会参加時等に声かけを行い、意見や要望を聞いている。化粧時のサポートや着替えなどの見守りの要請があったり、看取りについて話をするなど、ミーティングで話し合い、出された意見や要望は運営に反映させている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定例ミーティングなどで職員の意見や要望などを聞き話し合いの機会を設けている。また、日常業務の中でもコミュニケーションを図り、話しやすい関係作りに努めている。	職員の意見や要望は、ミーティング時や日々の業務の中で、常時、話し合っている。利用者にとって一番良い方法を考え、意見を出し合っている。危険物を取り除く配置や席替え、食器の工夫、エプロン使用など、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	1回/月、代表者や各部署の主任が集まり会議が開催される。職場環境や条件の整備が行われる。職員は会議録を閲覧し内容を把握している。		
13		○職員を育てる取り組み  代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部では安全対策・感染委員会への参加、外部ではG・H連絡協議会の研修などに参加している。研修受講後は定例ミーティングで報告している。勤務しながら資格取得出来るよう、勤務体制の調整も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上  代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の中でG・Hの集まり「よかど会」がある。定期的に会議を行い、意見交換や勉強会を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメント資料を把握し、出来る範囲内で要望等に耳を傾け安心して生活出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に数回面談を行い、御家族の困り事を把握している。問題解決に向け、お互いに協力出来る関係作りを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントの結果で支援の見極めを行っているが、入居前に体験入居を勧めている。御家族にも泊まっていたいただき、状態の把握に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で季節の行事や習わしを入居者様から学んだり、職員は調理の際に旬の食材を取り入れた料理を提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通常の面会以外に、行事参加等への声掛けを行い、御家族との絆を深められる機会を提供している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人に訪問して頂けるよう明るいホーム作りを心掛け、時には電話で近況を伝えることもある。また、四季折々の行事を企画し、参加出来るようにしている。	家族や兄弟・友人などの面会が多く、自宅に連れて帰ったり、馴染みの美容室に行ったり、ホームへ友人が訪ねてきたり、毎月ゆかり便りで利用者の生活状況を担当が一筆したためて報告し、家族から電話をもらうなど、馴染みの関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	これまでの生活歴や習慣の違いでトラブルが起こらないよう目配りし、入居者様が楽しく生活出来るよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内に医院があるため、御家族が受診に来られている場合もある。進んで声掛けし、近況など話せる関係作りに努めている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用開始前に入居者様や御家族、関係者から暮らしの意向を聞き、介護計画に生かしている。入居後はなるべくコミュニケーションを図り要望を聞くようにしている。	生活歴を参考にして、一人ひとりの思いや意向をリビングでソファーに座って居る時や居室などでコミュニケーションを図りながら、話を聞いている。入浴時のリラックスなときにも思いを聞いている。困難の場合は、家族と相談しながら本人中心に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族や友人の面会を継続し、これまでのインフォーマルサービスを利用出来るように配慮する。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	大まかな週の行事や日々の日課はあるが、入居者様の体調や希望を考慮し、個別に声掛けしながら支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様、御家族の希望や意向を基に、医師やPTの意見を参考に介護計画を立てている。また、職員の気づきやミーティングで話し合い、より良いケアを計画に反映させている。	本人や家族から話を聞き、職員・医師・理学療法士の意見を参考に、本人がよりよく暮らせるような介護計画を作成している。モニタリングは定期的に行い、必要時、見直しを行っている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各入居者様の状態を個別記録に記入し、朝夕の申し送りで状態の把握に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物やドライブ、散歩など気分転換を兼ねて行えるようにしているが、十分とは言えない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	往診や訪問歯科、訪問理容など利用している。介護力の弱い御家族には、介護タクシーなどを提案している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当院が主治医となっている入居者様が多く、協力医療機関への診療もスムーズに行えている。ホームの看護師が主治医と連携を図り、必要時は早急な治療が受けられる。	かかりつけ医は、協力医療機関で以前から診察を受けていた利用者がほとんどであり、連携を取りながら、適切な医療が受けられるように支援している。受診は基本的に家族が行っている。状態の変化に伴い適切な医療の支援をしている。他の医療機関の受診希望がある場合、紹介状持参で家族が同伴している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護職員を配置しており、健康管理や医療面での対応を行っている。また、日常的に介護職員は看護職員への入居者様の身体状況を報告している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には主治医の指示の元、看護職員が中心となり病棟との連携を密にとっている。退院時は御家族との話し合いの場を設け、退院後の支援について計画を立てている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>御家族へ重度化や看取りに関する方針を説明し、同意を頂いている。また、状況の変化に応じて入居者様の意思を尊重し、主治医を中心に状態に応じた支援を行っている。</p>	<p>利用開始時に重度化についての説明を行い、同意を得ている。利用者の状態に合わせてその都度、家族と話し合いを行っている。家族会でも看取りについて、事例を用いて方針を説明し、重度化や終末期・看取りについても家族や職員の協力で支援を行っている。状態の変化に応じて家族に逐一報告し希望に応じた支援をしている。職員も体制作りをして看取りを体験している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間の救急マニュアルは作成している。また、随時看護師より応急処置などを指導してもらっているが、ホーム内の事業計画として定期的に勉強会などを開催する必要がある。		
35	13	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署協力のもと、2回/年の消防訓練を実施し、通報や初期消火、避難訓練を行っている。また、近隣住民へ災害時の協力を依頼している。	年2回、消防署の指導を得て昼夜間想定避難・消防訓練を行っている。地域交流会で災害時の協力依頼をしている。近隣への呼びかけも行っている。災害時の備蓄の準備もしている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な言葉使いや視線を合わせた会話を心掛けている。自室で過ごす時間も大切に出来るよう配慮している。	一人ひとりを尊重し、プライバシーに配慮しながら丁寧な言葉で、声かけしている。利用者を～さんと呼び、排泄時は耳元で声かけしたり、着替えはカーテンやドアを閉めて対応している。プライバシーへの配慮も気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中で入居者様の希望を汲み取り、献立やレクリエーションと一緒に考えるようにし、自己決定の場面を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のペースに合わせ、必ずしも日課通りを行うことを目的としていない。必ず希望を聞くように配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	1回／2か月訪問理容を利用している。希望によっては家族が美容院へお連れしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に調理を行うことは難しくなっているが、下膳などは一緒に行っている。季節の食材を使ったり、行事に合わせた料理を提供している。	毎日、入居者に食べたい献立を聞き、職員と一緒に旬野菜の皮むきや食事の準備・食器の後片付けをしている。誕生会や行事食の提供、レストランでの外出に出かけている。個々に応じた食事形態の工夫もしている。利用者と職員は一緒に食事をしながら食事が楽しみになるように支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は毎食摂取量を個別で記録している。水分はこまめに提供し、摂取が進まない時はジュースなどの提供も試みている。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。必要な方には、付き添い手直しを行っている。就寝前は義歯を預かり、消毒・洗浄している。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	各入居者様に合わせた声掛けや排泄介助を行っている。排泄チェック表に記入し排泄パターンの把握をしている。	個々の排泄パターンに応じて、トイレ誘導を行っている。失禁時は耳元で声かけし、必要時、シャワー浴をしている。リハビリパンツや昼夜で使い分けるパット、ポータブルトイレなどを活用し、排泄の自立支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な水分や食物繊維、乳製品などを提供している。また、軽体操などの運動を取り入れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している</p>	<p>リハビリなどあるので、個別に入浴日を決めている。清潔はもちろんだが、リフレッシュも目的とした雰囲気作りも大切にしている。</p>	<p>その日の利用者の様子を見ながら声かけをしたり、リハビリ時間をさけて、入浴を支援している。同性による入浴介助を行っている。風呂で歌を歌うなどの雰囲気作りも大切にしている。入浴をいやがる利用者には、散歩などして気分転換を図ったり、翌日に変更するなど、入浴支援をしている。工夫して気持ちよく入浴できるように支援を行っている。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>入居者様の希望に合わせた起床、就寝時間としている。午後の昼寝も必ず取り入れている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>看護師が中心となり、各職員把握している。誤薬がないようチェック体制を強化している。また、薬の変更の際は職員間の情報共有に努めている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>天気の良い日はドライブや散歩を行い、個人の好みに合わせたレクリエーションを行い、気分転換を図っている。また、一緒に作業をすることで達成感を感じられるように配慮している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>家族の協力を得ての外出は行えているが、日常的と考えると入居者のADLの低下により、個人に割ける時間が少ない厳しい現状もある。</p>	<p>以前はホームの敷地内にある畑に芋の植え付けから収穫までを楽しむことができていたが、今は近隣の散歩に出かけている。家族の協力で自宅に帰ったり花見に出かけたりしている。ホームの車でドライブに出かけ、季節の花や外の景色を楽しんでいる。</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>個人で所持している入居者様もいるが、外出しお金を使うような支援は出来ていない。基本的には預かり金としてホームで管理している。</p>			
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>希望される入居者様には電話を使う援助を行っている。送られてきた手紙やハガキなどは、直接お渡ししている。</p>			
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用空間に台所があることで、日常の音や匂いを感じることが出来る。また、ホールは季節を感じられるような作品をレクリエーションで作成し飾っている。</p>	<p>ホールは、天井が高く明るく、ソファや畳があり、それぞれの思いで自由に寛ぐことができる。利用者の作品や季節を感じる花が飾られ、台所がホールに面しており、料理を作る音や香りから家庭的な雰囲気を感じられ、居心地よく過ごせる工夫がなされている。</p>		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	ソファや食事時の座席など、同姓、親しい関係などに配慮している。		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	家族の協力のもと、馴染みのある家具や使い慣れた物を持ち込んで頂き、身体状況に応じて、家具の配置を行っている。また、写真や作った作品を飾っている。	亡くなったご主人の作られた仏像やテーブルセット・テレビ・書籍・仏壇・人形など、使い慣れたものや好みのものが持ち込まれている。壁には家族の写真や誕生日の色紙が貼られ、その人らしい居室となっており、利用者が居心地よく過ごせる空間である。	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	浴室や廊下、トイレなどに手摺を設置し安全で自立した生活環境を提供している。また、トイレや居室はわかりやすく表示し、氏名・写真を貼ることで場所の認識が出来るようにしている。		

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
		○	3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない